

ぐりふぁん letter



Vol.
42
2021.7

INDEX

- ◆ 市民再エネプロジェクトin京都2021福祉×防災×おひさま発電所
～ 「福祉避難所」におひさま発電所を！ …… 2
- ◆ 福島とのご縁を大切に …… 3
- ◆ 「ア。ウン。パヴィリオン市民共同発電所」が完成！
水力発電所2号機工事中！ …… 4
- ◆ 電力自由化から5年、いま新電力は？ …… 5
- ◆ 2021年 総会報告 …… 6
- ◆ 2021環境学習 ぐりにゃん、ぐりわんの紙芝居の絵が増えました！
編集後記 …… 7

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)



福祉×防災×おひさま発電所

～「福祉避難所」におひさま発電所を！

◆自然エネルギー100%を目標に

2000年、京都に「市民共同発電所」をつくりたいと活動を始めたきょうとグリーンファンド、20年間で24か所、発電規模は200kW近くとなり、市民からの寄付総額は2,000万円を超えました。文字通り「ゼロ」からの出発でしたので、それなりの成果ででしょうか。

20年間には東京電力福島第一発電所事故があり、原発に対する評価ははかりと変わるはずでした。世界のCO2排出実質ゼロをめざす「パリ協定」発効で、自然エネルギーを爆発的に増やさねばならないはずでしたが、なぜか原発に頼るCO2削減の考え方も、根強く残り続けています。その間にも気候変動は、ますます危機的な状況を呈しています。大型化した台風や激しさを増す集中豪雨など「100年に一度」といわれる激しい気候が日常化しつつあり、まさに「気候危機」はよそ事でなくなりました。自然エネルギーへのシフトが急がれますが、「FIT」導入で自然エネルギーの発電事業が儲かった時期が通り過ぎた今、特に太陽光発電の伸びは確実に鈍化してしまいました。メガ・ソーラー適地はもうなくなった…、の声も聞こえ、その弊害も報道されています。単に目先の利益を上げるために太陽光発電を設置する期間はもうおしまいです。省エネを徹底し、自然エネルギー100%にシフトする時代を始めなくてはなりません。

◆新しい枠組みで、さらにパワーアップを！

そんな時、きょうとグリーンファンドは今までと同様、年に1～2か所設置していくというペースでいいのだろうか、と考えました。多くの市民に支えられてきたささやかな活動ですが、「ギア・チェンジ」をして、新たなスタートを切らねば…、仲間をもっと増やしてペースを上げねば…、そんな思いから「市民再エネプロジェクトin京都2021」の枠組みは生まれました。

お声掛けした団体は、NPO法人京都地球温暖化防止府民会議、認定NPO法人気候ネットワーク、一般社団法人市民エネルギー京都、NPO法人エコネット近畿で、コロナ禍の今、メールのやり取りと3～4回のZoomによるミーティングを経て、設置施設募集のチラシ配布まで進みました。きょうとグリーンファンドの「おひさまプロジェクト」を踏襲しながらも、さらにパワーアップしたプロジェクトになれば、と思います。

◆身近な地域の「福祉避難所」におひさま発電所を

住まいするまちに、市民参加でつくる市民共同発電所が「おひさま発電所」です。「あればいいのに…」と誰しもが思う施設は学校、保育園、高齢者や障がい者の施設…。その施設は災害時には避難所となるかもしれない施設でもあります。地域にある「みんなの施設」でもあるのですから、その施設に設置をお任せするだけではなく、市民が参加・協力して「あればいいのに」と考える太陽光発電をつくってもいいじゃありませんか。気候災害が頻発する今、私たちもいつお世話になるかわかりません。

事実、生活に欠かせないものとなった電気は、災害時も必要不可欠なものとして、避難所への設備導入は、日本各地で取り組まれています。特に「福祉避難所」は避難生活する場合に一定の配慮を必要とする方を対象とする避難所ですから、必要性はさらに増します。京都市であれば現在296か所事前指定されており、自主電源確保が求められています。

◆身近な場所から広げる自然エネルギー

市民が参加して設置する「おひさま発電所」は、地域の「みんなのもの＝共有財」として、増やしていきたい。自然エネルギー100%実現を目指し、地域のインフラ整備の一環として、市民が関わり協力していくことは、不可欠なことではないでしょうか。災害時には、「お互いさま」で助け合わねば、しのげないことが多々あるはず。スマホの充電ができることだけでもきっと役立つはず。

今まで以上に多くの方々と一緒に、きょうとグリーンファンドはこのプロジェクトを進めていかねば、と考えています。一緒にやってみよう、という方も大募集です。

◆詳しくは、きょうとグリーンファンド HP <http://www.kyotogf.org/news/renewable.html> をご覧ください。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)





福島とのご縁を大切に

みんなソラノシタ 林 リエ

私は、愛する我が子の成長を願い、食べ物はできるだけ添加物を避けて地産地消に心がけ、自然環境にはなるべく負荷をかけないように生活している一人の母親です。2011年に東日本大震災が発生し、その後東京電力福島第一原発で大事故が起こった時でも、「大変なことが起きた」と思いながらもどこか他人事でした。

2012年、我が子が通園していた向日市の幼稚園が、原発事故後様々な面で苦労されている福島の幼稚園の先生を京都に招いてリフレッシュしてもらおうというプロジェクトを企画しました。このプロジェクトに参加した私は、まず福島の実態を知ることから始めました。驚きの連続で、私が子育てで大切にしたいと願うことが原発事故が起こるとすべて失うことを知りました。

その後、福島の抱える問題解決には継続した応援が必要だと感じママ友に呼びかけ「100年先もみんな空の下で幸せに暮らしてほしい」という願いを込めて、2013年に京都発ママ達による福島子ども応援プロジェクト「みんなソラノシタ(略称みなソラ)」を設立しました。翌年には、福島の子どもたちは頻りに手洗いをする必要があるのに石鹸が不足していると聞き、郡山市の幼稚園にハンドソープを送りました。以来毎年続けていて、今年も本体と詰め替え用合わせて141個を送ることが出来ました。今までに、園庭での遊びが制限されている園児のために、郡山市の3幼稚園に室内砂場用の「ホワイトサンド」8トンを寄贈したほか、黒田征太郎さん提供の素敵なイラストを使ったみなソラオリジナルの「子どもぼうさいスケッチブック」を1,000冊贈りました。

メンバーのほとんどが、小さな子どもたちを抱えた子育て中の母親で、福島から自主避難してきた母親も二人います。子どもを幼稚園に送り出してから帰宅するまでの時間を利用して活動しています。現場は常に壁の連続ですが、メンバーで話し合いながら、ひとつひとつ課題を解決して前に向かって歩み続けています。

原発事故の甚大な被害を受けてしまった福島。10年を経過した今日、生活環境の除染も進み平穏な暮らしが戻つつありますが、中には今も日常生活に不安を抱える家庭もあります。また、山林の除染ができていないため、子どもたちは以前よりも自然の中での体験がしにくくなっています。

みなソラは、そんな福島の幼稚園児とその家族を京都に招待し、こちらの幼稚園に通ってもらう幼稚園留学を実施しています。これは、チェルノブイリ原発事故を受けて現在もベラルーシが国策として行っている子ども達の保養(非汚染地域に21日以上滞在すること)によって体内の放射線量が半減するというデータにヒントを得たもので、大人よりも放射線の影響を受けやすい幼児に少しでも安心できる環境で心ゆくまで遊んでもらおうという取り組みです。京都の幼稚園では、歓迎会とお別れ会以外特別扱いはいしません。でも、登園初日から初めて会った先生や友達とすぐに仲良くなります。お芋ほりや遠足等京都の園児と一緒に幼稚園生活を過ごします。「京都で一番うれしかったことは、お外できれいな葉っぱやドングリを拾ったり、砂場でお山を作ったり、泥んこ遊びをしても母親に怒られなかったこと」。別の子どもは、福島に残った父親に「晴れた日に、お外でお弁当を食べたことにびっくりした」と手紙を書きました。

母親達には毎日の心配事から離れ、ゆったりとした気持ちで子どもとの時間を楽しむことができる貴重な3週間となっているようで、「束の間だが、福島で抱える葛藤を忘れて過ごすことができる」と語った言葉が印象的です。京都の私達にとっても、福島の生の声を聞き、現状を知り、心を寄せることにつながります。希望者全員を受け入れられればいいのですが、受け入れ幼稚園の事情や資金的な制約等で、2017～2019年まで、毎年4家族を3週間京都に招待してきました(2020、21年は、新型コロナ感染症拡大のため中止)。

周りに「保養」に行くとは言い出せないまま、参加した母親もいました。でも、京都に来て、水たまりに手を付けて遊ぶ娘を笑って見ていられる。洗濯物を遠慮なく外に天日干しできる。こうした当たり前さに気づき、子どものために行動しているだけで悪いことをしているのではない。もっと、「保養」が当たり前に語れるようになってほしい。もう考え方が変わりました。隠すことはやめにする。期間中に開催した講演会でこう語ってくれた母親がいました。「京都の幼稚園で、息子が人生で初めて裸足で園庭を駆け回る姿を見て、涙した」母親もいました。また、「幼稚園で遊んで毎日くたくたになって帰ってくる。靴の中に砂が入っているのがとてもうれしい。京都で福島のことを思ってくださいる人たちがいることを知り、心のお守りをもらえた」と語ってくれた母親もいました。

幼稚園留学はいつまで続けるのですか。と、よく聞かれます。運営には多くの課題を抱えています。福島で子育てをする母親の幼稚園留学に対するニーズがなくなるその日まで継続していきたいと願っています。

「ア.ウン.パヴィリオン市民共同発電所」が完成!

特定非営利活動法人 サークルおてんとさん 清水 順子

奈良市水道用水専用「須川ダム」がある美しい里山風景の広がる奈良市東部の須川。そこで古民家が息を吹き返しました。

美術家の大久保裕恵さんとオランダ人のヨス ポートさんは、オランダからすべてを引き払って移住。古民家を買取り、断熱工事をされ、上質な住まい「ア.ウン.ハウス」に大改装。敷地内に設置した22.2kWの太陽光パネルの架台を「ア.ウン.パヴィリオン」と名付け、FIT制度で自己消費し余剰電力は20年間売電することにし、今年1月23日から発電を開始。農業や林業を通じ若者とのかかわりを広める活動が始まりました。地球温暖化防止の一役を担い、食からアートまで、幅広い提案を通して、ワークショップ、映画上映会、講座、展覧会等、屋内外での催しの企画運営の活動が行われ、地域のにぎわいに貢献することでしよう。



ア.ウン.パヴィリオン(全景)



ア.ウン.パヴィリオン
(屋根に太陽光パネル)



ア.ウン.パヴィリオン(内部)



2020年3月にきょうとグリーンファンドさんから紹介され、この構想をお聞きした時に、奈良にとってよい発信地になると直感しました。近鉄奈良駅から車で30分もかからずに行ける「上質な田舎」として、都市部住民との橋渡しになりうる市民共同発電所を作ろうと思い、市民に寄付を呼びかけたところ、関心も高く52名の方からご寄付をいただき、サークルおてんとさんの資金と合わせて30万円を寄付しました。サークルおてんとさんの市民共同発電所の8機目になりました。

山里の桜が咲き残る4月17日に「ならまち」の活性化を進めている若者たちによる企画運営のにぎやかな点灯式を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大を懸念し中止となりました。しかし、若者たちによる草刈りなど活動が開始されていると毎月の発電量とともに大久保さんから近況が報告されます。感染状況が落ち着いたら、少人数の見学会から交流を進めていく計画です。

水力発電所2号機工事中!



太陽ガス株式会社 新エネルギーチームチーム長 及川 斉志

太陽ガス関連の水力発電所としては2 機目が工事の真っ最中です。鹿児島県北薩地域の最高峰 紫尾山の南斜面に流れる泊野川の清流を活かしてもらい発電する泊野川水力発電所です。

1号機の水永吉(みなきち)君も発電開始までに5年の歳月が必要でしたが、2号機は着工まで5年かかってしまいました。1号機目は太陽ガスの本社がある鹿児島県日置市内の出力44.5kW でしたが、2 機は同県のさつま町内に建設中の503kW の発電所です。今年の9 月より着工して、来年令和4年(2021年)の春に運転開始を予定しています。この泊野川水力発電所は「みずいろ電力」という新会社を設立して事業化します。

水は身近にあって親しみやすく、子どもたちが水辺でぱちぱちと遊ぶ姿は微笑ましい限りです。電気には色がありませんが、そんな「みずいろ」の電気を作ってお客さんにお届けしたい、という想いを込めて命名しました。年間での発電量はおおよそ一般家庭650世帯分ほどになります。水力発電所は電源種別の中で最も二酸化炭素排出量が少ない発電方法です。太陽ガスはこれからも、人と自然に優しい水力発電所の建設に力を入れていきたいと考えています。ほんの10 年前までは35℃というような気温は考えられなかったと思いますが、この数年、目に見えて猛暑と豪雨災害などが増えてきています。熱帯地方か?と感ずることが多くなりました。子どもや未来の世代のためにも、環境への負荷がなるべく少ないエネルギーの創出に貢献できるよう努めていきますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

きょうとグリーンファンドと太陽ガスグループは「おひさまでんきプロジェクト」を進めています。太陽ガスグループの電気を使うことで、「おひさまプロジェクト」を応援しましょう!

電力自由化から5年、いま新電力は？

再エネ工房

林 敏秋

2016年の電力小売の自由化から5年経ちました。現在、電力自由化はどうなっているのでしょうか。登録小売電気事業者(新電力)は5月31日段階で722事業者となっています。全販売電力量に占める新電力のシェアは約20%、家庭などを含む低圧分野のシェアは20.9%(2020年12月資源エネルギー庁)となっています。じわじわと新電力が関電などの大手電力会社・旧一般電気事業者(旧一電)を追い詰めています。だが、2021年3月のNHKの世論調査では原発を「減らす、廃止」が約7割にもかかわらず、まだ8割の消費者が原発・石炭火力推進の旧一電から電気を購入しているのです。

◆市場価格高騰問題

昨年12月26日から1月27日まで日本卸電力取引所(JEPX)のスポット市場価格が高騰して話題を集めました。新電力は、殆ど大きな発電所を持っていません。電源の8割は旧一電が持っています。新電力は、旧一電から分けてもらうか、JEPXの市場で購入するしかありません。通常取引価格約8円/kWhが、1月15日には251円/kWhをつけました。

原因は、寒波到来による需給逼迫と液化天然ガス(LNG)の在庫不足だと報道されました。確かに発電量の4割のLNG火力はこの期間大きく出力低下しています。しかし、需給逼迫の原因ではあっても価格高騰の原因ではありません。12月26日、旧一電はJEPXのスポット市場に卸していた電力量を3割程減らしました。12月下旬、再稼働するはずだった関電の高浜原発3号機が蒸気発生器伝熱管のトラブルで動かせなくなり、原発ゼロの状態が続きました。需給逼迫を恐れた旧一電はJEPXへ卸す電力を抑えたため引き起こされた可能性が高いのです。

新電力は、電力供給量(30分間の電気量が3%)が不足するとペナルティーとして割高なインバランス料金を払わなければなりません。電力供給をJEPXに頼っている新電力はインバランス料金を恐れ、翌日の電力調達のため高めの買い入れ札に走りまわりました。これが市場価格高騰につながりました。今回の騒動で約1.7兆円が電力卸元の旧一電に渡ったという情報もあります。このあおりで新電力ナンバーワンのF-Powerは3月24日、倒産しました。

今回の事態から明らかになったことは、市場が未成熟であり、しかも公正ではないということです。電源の8割を旧一電が持ち、売り入れ(卸)量が義務化されていません。旧一電の都合で決められる状態です。原発などの不安定電源が止まると再び高騰が起これ得ます。「売り切れ」が起これない市場にしていける必要があります。

◆原発・石炭火力維持のための悪知恵

JEPXのスポット市場の他にも日本には多くの電力取引市場があります。「ベースロード市場」「容量市場」「需給調整市場」「非化石価値取引市場」など。複雑で一度聞いても私たち市民には何のことか解りません。「頭の悪い」経産省の官僚が、次から次に考え出してくるのです。ほとんど全て、原発や石炭火力発電を中心とした旧一電の体制を維持していくことに目的が置かれているとしか思えません。紙面の都合上全ての市場について触れられませんが、「容量市場」について簡単に見ておきます。

経産省の言い分では、電力自由化のもとで安定電源確保が難しくなってきたため安定電源確保と卸電力市場安定のために容量市場を開設したそうです。容量市場では、4年後の電源確保のためkWhの発電電力量ではなく、kWの発電能力が取引されます。新設、既設の区別がなく、古い原発や石炭火力は既に費用を回収しているため、旧一電にとっては「濡れ手で粟」「棚ぼた利益」の制度です。黙ってても落札金額がもらえるため原発、石炭火力の温存につながります。費用は新電力など小売電気事業者が支払います。結果消費者が払うこととなります。詳細がわからない1,6兆円の巨大市場です。

いま第6次エネルギー基本計画の議論が行われています。2050年に向けたエネルギー政策が決ります。経産省は、再エネを低く評価し、「容量市場」など原発を温存させる「悪知恵」を巡らしています。再エネ100%実現のためにも気を抜くことなく、関心をもって見つめていきたいと思えます。

2021年 総会報告

2020年1月からの新型コロナウイルス感染症による私たちの行動への影響は、とどまるどころかますます深刻となり、京都府でも4月25日から第3回目の緊急事態宣言が出され、しかも当初予定の5月11日には終わらずに6月20日まで延長されてしまいました。その時期はきょうとグリーンファンドにとって、毎年の総会の時期になります。多くの人が集まることができない中、昨年に引き続いてズームを使って開催することとなりました。東京からご参加も含め、17人の会員が参加しました。この1年、ズームなどによるリモート会議にも慣れ、オンライン総会はスムーズに進行し、無事に終了することができました。

残念だったのは、今年も学習会を開くことができなかったことです。

オンライン開催といっても、資料や会計報告などの準備は対面の総会と変わりません。お忙しい中ご協力いただいた北山税理士法人、監査の方々には御礼申し上げます。そして、いうまでもなく事務局のスタッフは間近まで奮闘してくれました。

コロナ禍、ワクチンによる抑制を期待したいところですが、次々と変異ウィルスが登場し、まだまだ予断を許さない状況です。来年には対面の総会・学習会を開催することができればと思いますが、皆さま引き続き感染対策に気をつけて健康で過ごしてください。

(きょうとグリーンファンド 理事長 松岡 憲司)



◆オンライン総会終了後、ひと言づつの雑談タイムをとりました。

● 若い人向けのコンテンツがあれば、学生さんにも紹介したい。こんな風に進めています、ということが伝わると、自分たち(多分若い人たち)でも、何かできる、と思ってもらえるのでは・・・。

⇒若い人たちにバトンタッチすることも考えなくては・・・。

● 福祉避難所への設置に、着眼したのはよかった。他団体との連携は、必要だと思う。また、You Tubeを活用していくのは、いいこと。 ⇒ありがとうございます。進めている方向を支持いただくと、元気が出ます。

● まちづくりにかかわる活動をしているので、避難所への設置はかさねる活動でもある。連携して広げていければ・・・。 ⇒ぜひ、よろしくお願いします。

● 自分が住んでいる市でも、パートナーシップの活動をする団体に属しています。他の団体と連携して、進めていけたらと思います。 ⇒そちらでもぜひご一緒に広げていけたらと思います。

● FMうじの番組を聞いた。若い人たちが関わってほしい。

⇒この番組はFM宇治「LET'S ECO TIME × RIT'S ECO TIME」で聞くことができます。

(https://www.instagram.com/tv/CI-nVYAJ8YU/?utm_source=ig_web_copy_link)

高校生のおしゃべりの内容がグリーンファンドの活動内容なので、高齢者としては、やたらうれしい。

● 東大阪から参加しています。何かできれば・・・。 ⇒2030年に向かって、ぜひ一緒にやりましょう。

● 温暖化防止推進員は、10期50名以上になりました。

⇒スタートした市民再エネプロジェクトでは、がっちり連携していただけるものと期待しています。

● 舞鶴から参加しています。できることからコツコツ積み上げていくことが大事と、今年も 緑のカーテンづくりに取り組みます。 ⇒できることからコツコツと、やるしかないですね。これからもよろしくお願いします。

● 理事が一人ずつでも会員を連れてきたら、今年の課題の一つは解決するだろうと思う。

⇒まことにその通りです。ほんとにありがたい、うれしい・・・。みなさま、よろしくお願いいたします。

～事務局の本音入り抄録です～





◆ぐりにゃん、ぐりわんの紙芝居の絵が増えました！

昨年からのコロナ禍で、環境学習は残念ながら十分実施することができていません。が、その中でもいくつかの園では密を避けて二回にわたっての実施など工夫され環境腹話術、自然観察会を実施することができました。このコロナ禍の中でも環境学習を途切れさせてはいけないという強い思いがありました。小さい頃からの環境学習の重要性を常日ごろから感じているからです。これからも立ち止まることなく、ますます大切になる環境学習を進め続けていきたいと思っています。

コロナ禍を逆手にとって、こんな時だからこそ積極的に環境学習の内容を精査し、より時代に合ったものを作り出そうという事で、4月に腹話術師の畠山さんに協力いただいて、話し合いの場をもちました。

環境腹話術では今まで、氷が解けてアザラシがとれない北極のシロクマや、子育てが難しくなった南極のペンギン、水没の危機にある南の島の絵などで、温暖化の様子を伝えてもらっていたのですが、さらに最近の話で、オーストラリアでの大火災、台風や豪雨によって川が氾濫しているところなども加えたい…ということになりました。

そして、保育園や幼稚園の先生方が、日常気にかけておられることの一つが紙の無駄使いとお聞きしておりました。お絵かきの紙をポイ、折り紙を失敗してポイ！、それも描いてもらうことに。

子どもたちに分かりやすく伝えるために、ぐりにゃん、ぐりわんの紙芝居の絵を描いてくださった方に久しぶりに描いてもらうことになりました。さすが、ぐりにゃんを生み出した方です。的を得たステキな絵を描いてくださいました。この3種類の絵も使って、また腹話術もバージョンアップすること間違いのないと思います。



◆環境学習の他の二つの柱、自然観察会と職員研修について

自然観察会は「おひさま発電所」設置施設からの依頼がほとんどだったのですが、これからは設置施設に限らず、機会をとらえて実施するようにします。

職員研修は、新しいメニューとして「おひさま発電所」設置施設に、災害時における自立運転についての周知をはかっていきます。



編集後記

- ・1年以上にもわたるコロナ騒動、生活も一変しました。いつになるのかわからない収束までに、まだ色々変わるような気がします。(K.M)
- ・季節を測るモノサシ「平年値」が変わったそうです。1981～2010の30年間の観測値の平均が1991～2020の平均に変わったことで、全国平均気温が0.2～0.5℃上がり、降水量も10～20%増えたとか。京都市は、年間の猛暑日の日数が全国1になった！イヤだあ！(K.O)
- ・コロナワクチン、始め打ちたくなかったけど、予約が取れ打ってみたらなぜか安堵感がありました。早く収束に向かいますように！(Y.F)
- ・今年は久しぶりに、スズメにツバメ、ウグイスと、我が家の周りで小鳥たちが元気に飛び回っています。自然のサイクルが乱れないようにクリーンなエネルギーを。(T.Y)
- ・住宅の設備の改修で停電と断水が有りました。予告が有っても不便な時間でした。災害でライフラインがストップしたらと思うと、備えの重要性を実感しました(Y.M)
- ・オリンピックをやるらしい。国民の過半数が中止、延期を望んでいるのに。命より権力維持が大事らしい。これでは戦争もやりかねんと誰かが言っていた。夏だが薄ら寒さを感じる。(T.H)
- ・小泉環境大臣の「ビルや住宅に太陽光発電設置をの義務化を考えるべき」発言、実現すれば「おひさま発電所」もお役御免。早くそうなってほしいものです。(S.K)

《 ぐりふあん日誌 》

- | | |
|--|--|
| 3/8 市民再エネプロジェクト in 京都 2021 ミーティング
／オンライン | 5/28 KGPN総会／オンライン |
| 3/18 上鳥羽北部いきセン 活動について打合せ／オンライン | 6/4 自然エネルギー学校検討会議／オンライン |
| 3/24 第133回理事会／オンライン | 6/5 2021年総会 |
| 3/29 自然エネルギー学校検討会議／オンライン | 6/8 市民再エネプロジェクト in 京都 2021 ミーティング
／オンライン |
| 4/5 KGPN幹事会／オンライン | 市民再エネプロジェクト in 京都 2021 設置施設
募集開始 |
| 4/15 上鳥羽北部いきセン 活動について打合せ／オンライン | 6/11 上鳥羽北部いきセンエコ活動打合せ |
| 上鳥羽北部いきおひさま発電所太陽光発電設備
定期点検 | 6/17 市民再エネプロジェクトについて相談／京都市福祉
ボランティアセンター、京都市市民活動総合センター |
| 4/20 市民再エネプロジェクト in 京都 2021 ミーティング
／オンライン | 6/18 おひさまでんきプロジェクトニュースター発行 |
| 4/23 環境学習検討会 畠山智子さん／オンライン | 6/26 自然エネルギー学校・京都2021第1回 |
| 4/26 自然エネルギー学校検討会議／オンライン | 6/27 NPO法人 京都地球温暖化防止府民会議総会
／オンライン |
| 5/9 脱原発カフェ「いま、電気は？」講師
／使い捨て時代を考える会 | 6/28 市民再エネプロジェクトについて相談
／京都市地球温暖化対策室 |
| 5/11 2020年度 監査 | 6/30 環境腹話術／大宮保育園 |
| 5/14 ゲストスピーカーとして活動紹介(立命館大学)
／オンライン | 市民再エネプロジェクト 京都府地球温暖化防止活動
推進員対象説明会／オンライン |
| 5/18 KGPN幹事会出席／オンライン | |
| 5/21 市民再エネプロジェクト in 京都 2021 ミーティング
／オンライン | |

□ 寄付のお願い

きょうとグリーンファンドの活動はみなさまの寄付によって
ささえられています。
おひさま基金へのご寄付は ゆうちよ振替をご利用下さい。

ゆうちょ銀行振替口座番号:00930-6-157817
加入者名:きょうとグリーンファンド

★2020年4月1日付で京都市から認定NPO法人として再認定されました。
認定NPO法人への寄付は、税法上の特別措置の対象になります。

会員数

正会員 35 賛助会員 24
法人会員 6 2021/7現在



認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド

〒600-8191 京都市下京区五条高倉角塚町21 事務機のウエダビル206
TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org
URL ; http://www.kyoto-gf.org (火～金 13:00～16:00)

